

スーパーマーケット販売統計調査資料

2018 年 2 月実績 速報版(パネル 270)

1 月実績 確報版(パネル 270)

(2018 年 3 月 22 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業 (DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年3月22日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2018年2月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	82,916,308	100.0%	102.2%	100.7%
食品合計	75,054,883	90.5%	102.8%	101.1%
生鮮3部門合計	28,854,117	34.8%	103.7%	101.9%
青果	12,179,073	14.7%	105.9%	104.4%
水産	7,061,893	8.5%	99.9%	98.1%
畜産	9,613,151	11.6%	103.8%	101.9%
惣菜	8,424,788	10.2%	103.3%	101.2%
日配	16,003,315	19.3%	102.2%	100.9%
一般食品	21,772,663	26.3%	101.8%	100.3%
非食品	5,596,707	6.7%	97.9%	97.3%
その他	2,264,765	2.7%	96.8%	96.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	11,341,976	43	102.3%	100.6%
関東地方	30,435,958	73	102.6%	101.0%
中部地方	10,288,554	53	103.3%	101.5%
近畿地方	18,233,193	44	101.3%	100.4%
中国・四国地方	8,189,470	34	101.0%	98.5%
九州・沖縄地方	4,427,158	23	101.9%	100.6%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	659,490	45	99.7%	99.7%
4～10店舗	3,633,956	73	102.8%	100.0%
11～25店舗	9,253,231	62	101.2%	99.2%
26～50店舗	14,995,110	46	102.1%	100.2%
51店舗以上	54,374,521	44	102.4%	101.0%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	80,666,422
総店舗数（店舗）	7,899	店舗平均月商（万円）	10,497
総売場面積（㎡）	13,130,938	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.3

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年3月22日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2018年1月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	88,514,016	100.0%	102.3%	100.8%
食品合計	79,213,135	89.5%	102.9%	101.2%
生鮮3部門合計	31,329,740	35.4%	104.0%	102.3%
青果	12,818,960	14.5%	107.0%	105.4%
水産	7,939,231	9.0%	100.8%	99.3%
畜産	10,571,549	11.9%	102.8%	101.0%
惣菜	8,780,159	9.9%	103.8%	101.5%
日配	16,863,314	19.1%	102.1%	100.8%
一般食品	22,239,922	25.1%	101.5%	100.0%
非食品	6,730,926	7.6%	99.4%	98.8%
その他	2,570,001	2.9%	95.5%	96.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,906,544	43	101.7%	99.9%
関東地方	32,332,260	73	103.3%	101.7%
中部地方	10,802,720	53	101.7%	100.2%
近畿地方	19,762,275	44	101.8%	100.8%
中国・四国地方	8,641,969	34	101.3%	99.7%
九州・沖縄地方	5,068,249	23	101.5%	100.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	691,419	45	99.3%	99.3%
4～10店舗	3,783,069	72	100.9%	99.8%
11～25店舗	9,824,971	64	101.1%	98.9%
26～50店舗	15,248,954	45	101.2%	100.0%
51店舗以上	58,965,603	44	102.9%	101.4%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	86,239,295
総店舗数 (店舗)	7,908	店舗平均月商 (万円)	11,193
総売場面積 (㎡)	13,148,756	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年2月エリア別気候状況

1. 2月気温の特徴：全国的に気温が低かった

上旬：西日本と沖縄・奄美でかなり低く、東日本で低かった

中旬：北・西日本で低かった

下旬：北日本では低く、東・西日本と沖縄・奄美は平年並だった

2017年2月との比較：上旬は北日本を除いてかなり低く、中旬は北日本で前月よりかなり低い気温となった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2018年2月			2017年2月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	0.7	-1.4	-1.9	0.9	2.6	-0.1	-0.2	-4.0	-1.8
東北地方	0.1	-1.4	-1.8	1.1	1.5	-0.1	-1.0	-2.9	-1.7
関東甲信地方	-1.1	0.0	0.1	0.8	0.8	1.0	-1.9	-0.8	-0.9
北陸地方	-1.3	-1.4	-0.6	0.9	0.5	-0.1	-2.2	-1.9	-0.5
東海地方	-1.7	-0.7	0.7	0.3	0.0	0.5	-2.0	-0.7	0.2
近畿地方	-2.1	-1.1	0.8	0.4	-0.2	0.2	-2.5	-0.9	0.6
中国地方	-2.8	-1.3	0.7	0.8	0.0	0.1	-3.6	-1.3	0.6
四国地方	-3.0	-1.5	0.9	0.7	0.1	0.3	-3.7	-1.6	0.6
九州北部	-2.9	-1.4	0.4	0.7	0.3	-0.1	-3.6	-1.7	0.5
九州南部・奄美地方	-2.9	-1.1	0.0	0.4	-0.3	-0.6	-3.3	-0.8	0.6

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

2. 2月日照時間の特徴：北日本太平洋側と東・西日本で多かった

上旬：北・東日本日本海側で多かった

中旬：北日本日本海側でかなり少なかった。一方、東日本太平洋側でかなり多く、西日本と沖縄・奄美で多かった

下旬：北・西日本と東日本日本海側で多かった

2017年2月との比較：上旬にかけて東日本の太平洋側では前年よりやや多い日照時間となった

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2018年2月			2017年2月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	98	77	115	94	64	97	4	13	18
東北地方	138	96	126	68	92	109	70	4	17
関東甲信地方	101	135	87	109	131	113	-8	4	-26
北陸地方	121	103	141	81	100	103	40	3	38
東海地方	109	133	109	98	119	119	11	14	-10
近畿地方	130	135	129	76	102	120	54	33	9
中国地方	121	136	125	109	122	110	12	14	15
四国地方	98	112	119	98	118	125	0	-6	-6
九州北部	81	103	125	99	144	112	-18	-41	13
九州南部・奄美地方	86	116	114	116	161	113	-30	-45	1

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

3. 2月降水量の特徴：日本海側は北陸地方を中心に記録的な大雪、東日本太平洋側はかなり少なかった

上旬：北日本太平洋側と東日本日本海側ではかなり多く、西日本太平洋側で多かった一方、北日本日本海側では少なかった

中旬：北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多かった。一方、東日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なかった

下旬：東日本太平洋側ではかなり少なく、北日本太平洋側と東・西日本日本海側で少なかった

2017年2月との比較：上旬日本海側では多く、中旬以降は東日本太平洋側と西日本日本海側で前年よりかなり少ない降水量となった

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2018年2月			2017年2月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	149	145	68	59	100	87	90	45	-19
東北地方	121	116	46	141	110	58	-20	6	-12
関東甲信地方	97	6	13	70	37	44	27	-31	-31
北陸地方	163	109	37	91	162	85	72	-53	-48
東海地方	83	4	18	106	39	97	-23	-35	-79
近畿地方	155	16	33	150	82	57	5	-66	-24
中国地方	148	10	47	177	130	81	-29	-120	-34
四国地方	224	17	84	130	33	69	94	-16	15
九州北部	100	43	106	168	51	94	-68	-8	12
九州南部・奄美地方	125	57	120	91	34	84	34	23	36

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

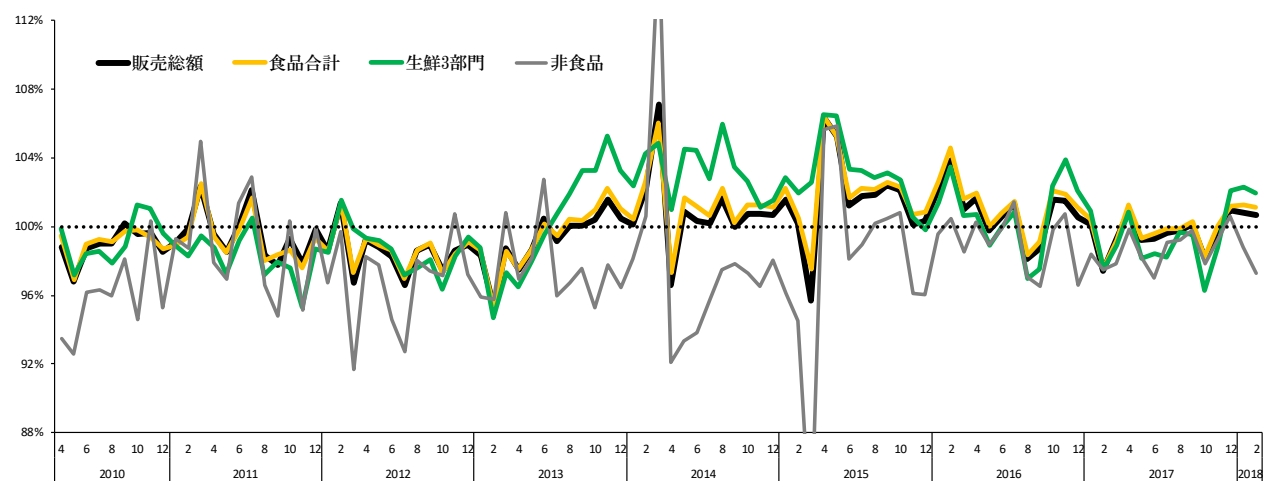
気象庁ホームページ・報道発表資料「2月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

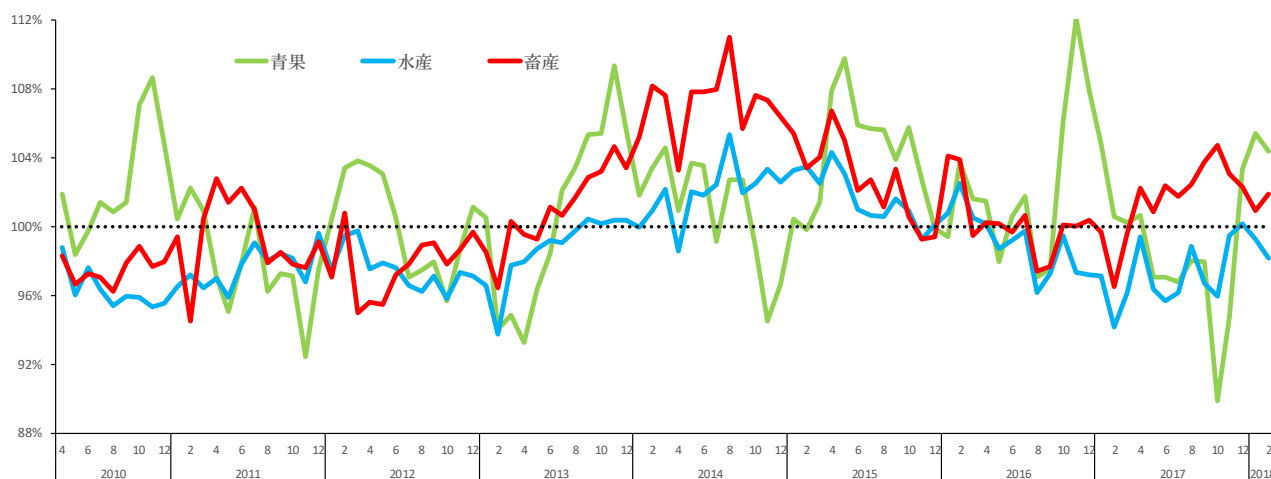
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

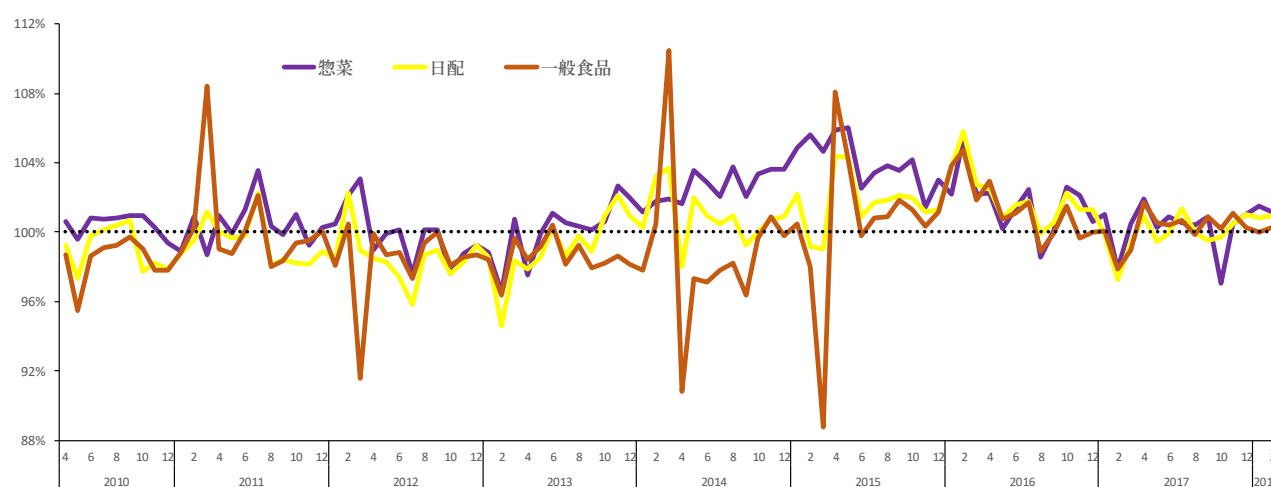
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年1月までは確報版による前年同月比、2018年2月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2018 年 3 月調査結果（2 月実績）
（2018 年 3 月 22 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの 5 段階で評価
- ・前年同月を 100 とした当月の値を調査 ※2014 年 4 月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの 5 段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比（％）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3 ヶ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで 5 段階で評価
- ・今後 2～3 ヶ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの 5 段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比（％）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

3月調査（2月実績）結果概況

景気判断DIは小幅に悪化も、大幅に改善した前月水準は維持

2月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から-1.4の46.1、見通し判断は前月から-0.7の45.3となり、どちらも小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DIが-6.0とわずかに前月を下回ったものの、収益DIは-4.1と前月よりわずかに上昇した。引き続き青果相場高騰が続いており、生鮮仕入原価DIが16.2と高止まりし、客単価DIが9.6とプラスを維持している。その一方で降雪や朝晩の気温低下により来客数DIが-15.4とマイナス幅が拡大したことが売上DIの重しとなった。

カテゴリー動向調査では、青果相場が高騰している青果DIが11.4と二桁のプラスを維持しているほか、気温低下による鍋需要により畜産DIもわずかなプラスとなった。それ以外のカテゴリーDIはマイナスとなっているが、特に不漁による品不足や価格高騰の続く水産DI、他業態との競合が厳しい非食品DIはマイナス幅が大きくなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、現状、見通し共にDIは小幅な動きにとどまっている。そのため前月プラス転換した各移動平均線は引き続きわずかなプラスを維持している。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

前月同様に生鮮相場高騰による客単価上昇が来客数減を補う動向となった。そのなかで、曜日巡りの影響もあるが、バレンタインや節分商戦の売れ筋に変化の兆しがみられ、従来の定番訴求だけではニーズに十分に対応できないとの指摘が散見された。SNS普及などでトレンド把握の難易度が高まるなか、スーパーマーケットは情報収集力も求められる時代となっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 46.1 （-1.4） 前月：47.5	消費者購買意欲DI 当月： 45.8 （-0.1） 前月：45.9	周辺地域 競合状況DI 当月： 41.6 （-0.5） 前月：42.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 47.1 （-0.2） 前月：47.3
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 45.3 （-0.7） 前月：46.0	消費者購買意欲DI 当月： 45.6 （-0.7） 前月：46.3	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.0 （-0.9） 前月：40.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 46.9 （-0.4） 前月：47.3
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-6.0（-1.4） 前月：-4.6	客単価DI 当月：9.6（+2.7） 前月：6.9	来客数DI 当月：-15.4（-3.0） 前月：-12.4	
収益DI 当月：-4.1（+1.1） 前月：-5.2	販売価格DI 当月：6.2（-0.1） 前月：6.3	生鮮品仕入原価DI 当月：16.2（-1.9） 前月：18.1	食品仕入原価DI 当月：4.1（+1.1） 前月：3.0

カテゴリー動向

青果DI 当月： 11.4 （-2.2） 前月：13.6	水産DI 当月： -11.6 （-2.3） 前月： -9.3	畜産DI 当月： 1.7 （+3.9） 前月： -2.2	
惣菜DI 当月： 0.3 （+0.2） 前月：0.1	日配DI 当月： -0.8 （+4.1） 前月： -4.9	一般食品DI 当月： -5.4 （+0.3） 前月： -5.7	非食品DI 当月： -12.8 （-2.0） 前月： -10.8

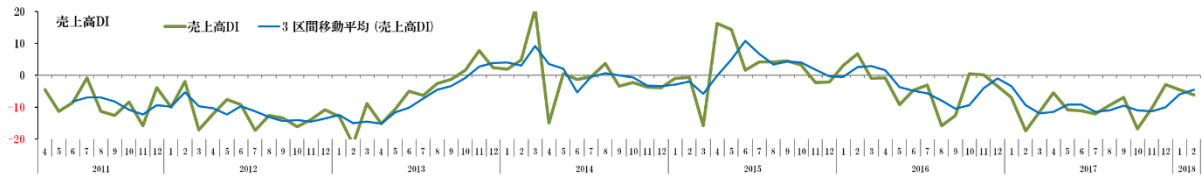
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

3月調査（2月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

やや低下も小幅なマイナス圏での推移が続く

回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	7.6	29.9	38.1	21.8	2.5	-4.6
売上高（当月）	9.4	33.5	30.6	24.7	1.8	-6.0



2. 収益DI

やや上昇も小幅なマイナス圏での推移が続く

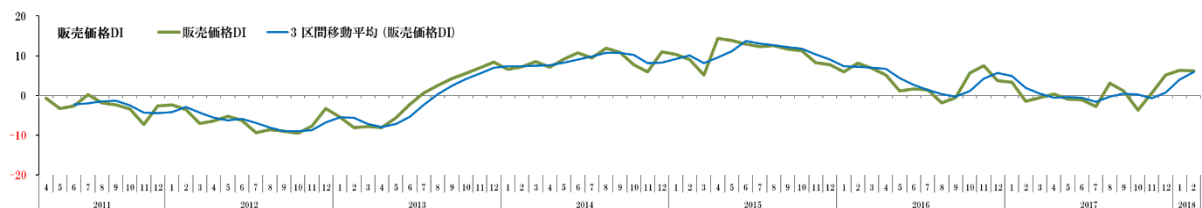
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	8.3	29.0	40.9	18.7	3.1	-5.2
収益（当月）	6.0	30.7	41.0	18.1	4.2	-4.1



3. 販売価格DI

前月と変わらずプラスを維持し底堅く推移

回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	10.2	55.8	32.5	1.5	6.3
販売価格（当月）	0.0	10.6	55.3	32.9	1.2	6.2



4. 客単価DI

やや上昇しプラス幅を維持し底堅く推移

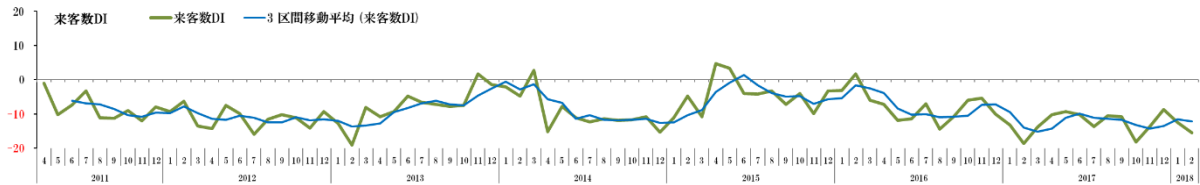
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	14.2	43.1	41.6	0.5	6.9
客単価（当月）	0.6	11.8	39.4	45.3	2.9	9.6



5. 来客数 DI

やや低下し二桁マイナス圏での低迷続く

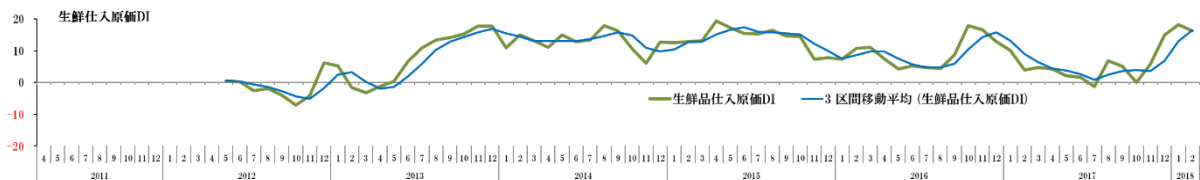
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.2	42.6	34.5	12.2	0.5	-12.4
来客数 (当月)	11.2	48.2	32.4	7.6	0.6	-15.4



6. 生鮮仕入原価 DI

3 ヶ月連続で二桁のプラスを記録

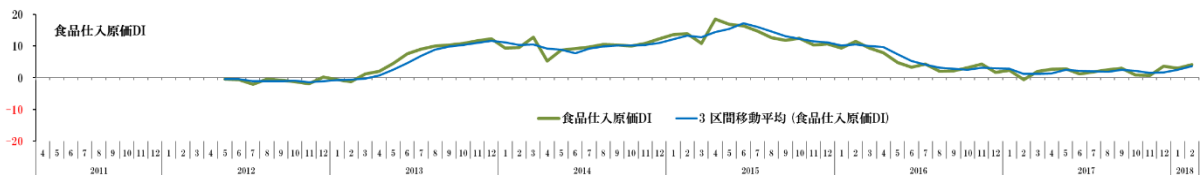
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.0	4.7	26.4	56.5	11.4	18.1
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	4.8	34.5	51.8	8.9	16.2



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス域で横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.1	6.2	68.4	20.2	2.1	3.0
食品仕入原価 (当月)	1.8	8.3	62.7	26.0	1.2	4.1

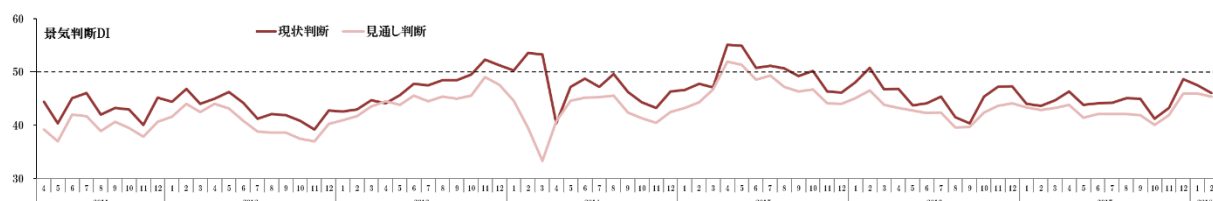


Ⅱ．景況感調査（2011年4月～／周辺地域景気判断のみ2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共にやや悪化も底堅く推移

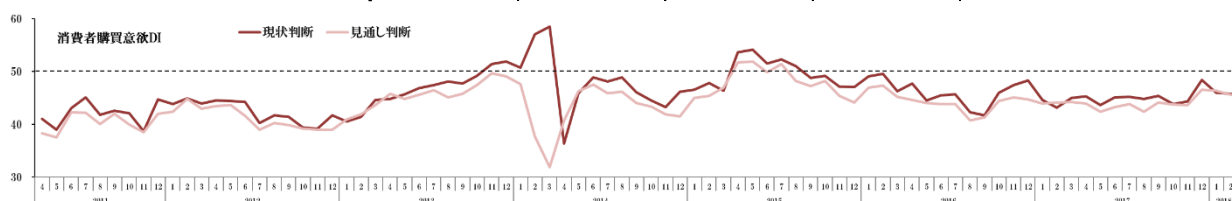
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.0	19.2	69.2	10.1	0.5	47.5
【現状】景気判断（当月）	1.8	21.6	67.3	9.4	0.0	46.1
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	1.5	23.7	64.6	9.6	0.5	46.0
【見通し】景気判断（当月）	2.3	21.1	69.6	7.0	0.0	45.3



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で堅調に推移

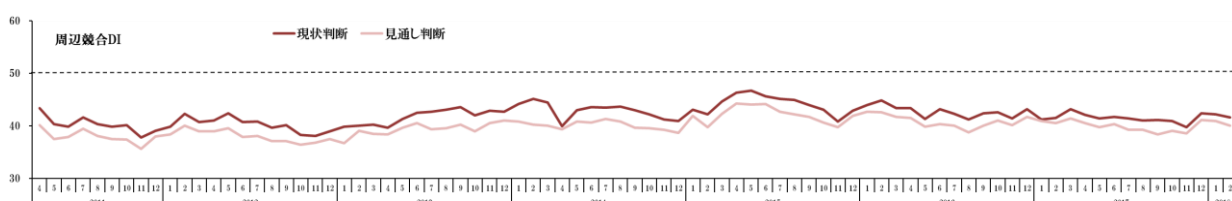
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.5	21.8	71.6	5.6	0.5	45.9
【現状】購買意欲（当月）	1.2	22.2	69.0	7.6	0.0	45.8
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.0	20.8	73.6	5.1	0.5	46.3
【見通し】購買意欲（当月）	0.0	22.8	71.9	5.3	0.0	45.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に悪化も低位横ばいでの推移

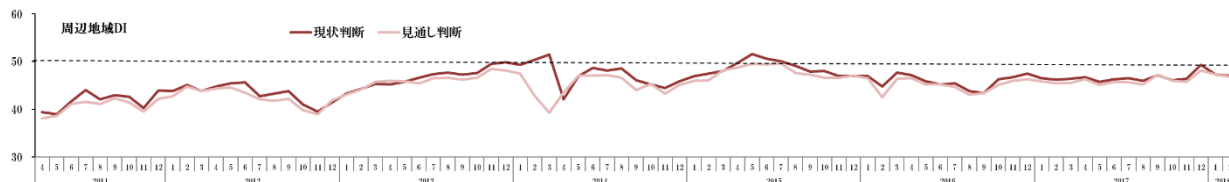
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	2.0	29.9	66.0	1.5	0.5	42.1
【現状】競合状況（当月）	4.1	28.8	63.5	3.5	0.0	41.6
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	3.6	31.5	63.5	1.0	0.5	40.9
【見通し】競合状況（当月）	5.3	31.8	60.6	2.4	0.0	40.0



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

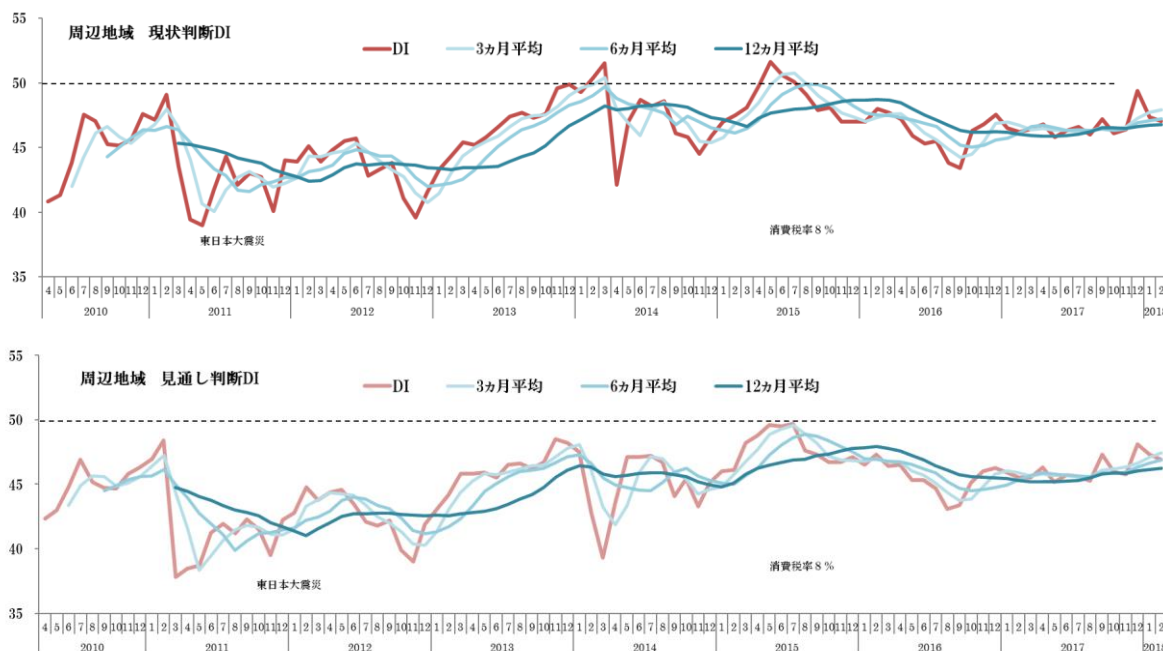
現状判断、見通し判断共前月水準で堅調に推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	13.2	84.3	2.5	0.0	47.3
【現状】地域景気 (当月)	0.6	12.9	84.1	2.4	0.0	47.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	13.7	83.2	3.0	0.0	47.3
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	13.5	83.5	2.4	0.0	46.9



長期傾向 (2010年4月～)

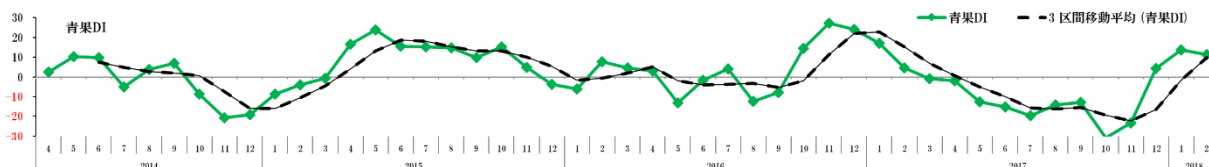
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断 DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り12ヵ月移動線付近で下げ止り、横ばい推移が続いていたが、12月に大幅な改善をみせすべての移動線がプラス転換し、その後も堅調に推移している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI : 11.4 (好調)

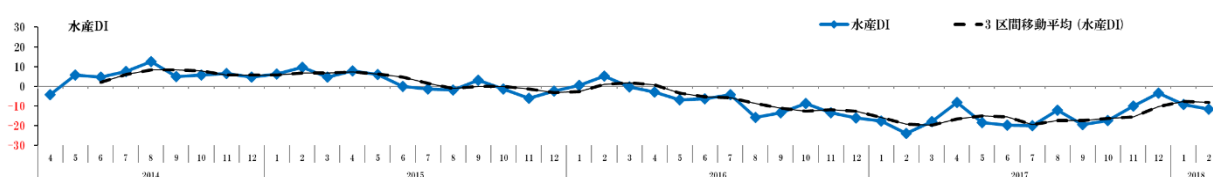
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	2.6	14.8	23.8	42.9	15.9	13.6
青果 (当月)	5.5	13.4	24.4	43.3	13.4	11.4



前月から葉物を中心に野菜相場高騰が継続しており、販売数量の減少はみられるものの、一品単価が大きく上昇し好調となった。そのためカット野菜やカット大型野菜の小分け販売などが特に好調となった。また前年より低い気温による鍋物需要の高まりを受け、白菜やキノコ類など関連野菜の動きもよかったが、一部値上がり幅が大きい地域では伸び悩んだ店舗もみられた。国産果物では柑橘類は動きが悪く、いちごはやや好調とした店舗が多かった。果物類も相場が高く、カットフルーツの動きがよかった。バナナなど輸入果実は好不調がわかれている。

2. 水産 DI : -11.6 (不調)

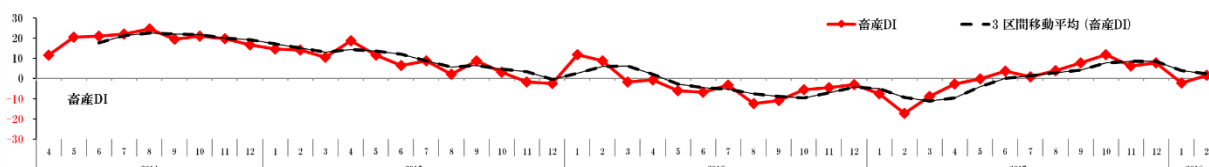
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	11.6	31.7	40.2	14.8	1.6	-9.3
水産 (当月)	13.4	39.0	29.9	15.9	1.8	-11.6



引き続き近海魚は不漁による高値や入荷不足による品薄の影響が大きく不調が続いている。気温の低下により鍋物関連は動きがよかった、一方でまぐろ相場高騰の影響で刺身類は不調となった。節分が土曜日で曜日巡りに恵まれたため、恵方巻などの関連商材の動きはよかった。価格が高騰しているシラスやタコは不調する店舗が多い。一方で漁獲量の多いサバやサワラ、相場の安定している貝類は比較的好調とする店舗が多かった。

3. 畜産 DI : 1.7 (やや好調)

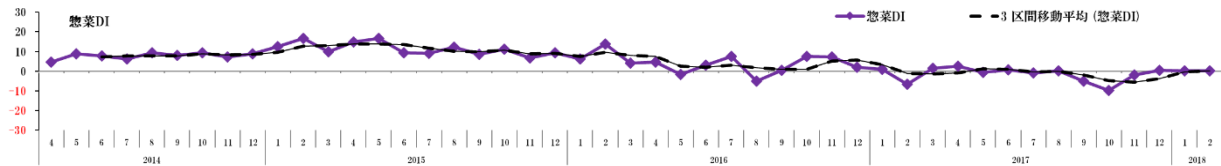
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	4.8	29.1	39.2	24.3	2.6	-2.2
畜産 (当月)	4.2	24.2	35.8	32.1	3.6	1.7



全般的な相場高が続くなか、気温低下による鍋需要に増大で牛豚鶏ともにバラやスライスなどを中心に関連商材が好調に推移した。豚肉では、銘柄豚の訴求により好調となった店舗がある一方で、価格高騰により輸入豚に切り替え単価下落した影響を受けた店舗もみられた。加工肉は不調とする店舗が多い。サラダ用チキンは引き続き好調、水産部門からの需要の流入を指摘するコメントもみられた。

4. 惣菜DI：0.3（やや好調）

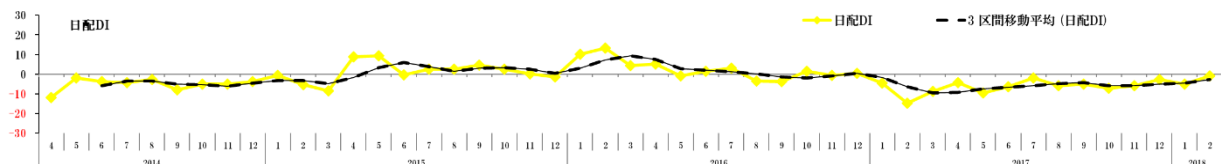
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.8	22.5	42.8	27.3	2.7	0.1
惣菜（当月）	4.3	23.9	40.5	28.8	2.5	0.3



野菜価格高騰によりサラダ類や和惣菜が好調となった。節分が土曜日であり恵方巻に力を入れているが、手作りやこだわりを訴求し好調となった店舗がある一方で、ロスが多く出た店舗もみられ判断はわかれている。オリンピック時期に韓国フェアを開催し好調となった店舗もみられた。気温の低下でホットメニューが好調な動きをみせたが、寿司や冷惣菜は動きが鈍かった。春の食材を使った惣菜の動きもよかった。

5. 日配DI：-0.8（やや不調）

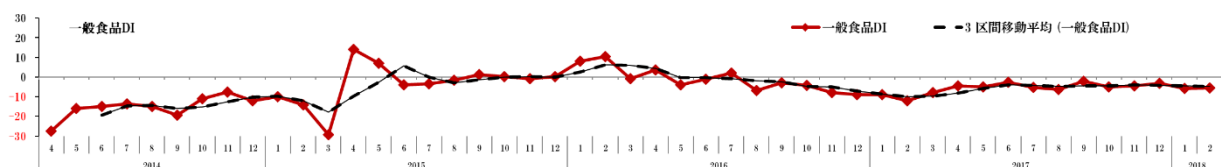
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	5.3	31.4	43.6	17.0	2.7	-4.9
日配（当月）	3.1	28.2	41.7	22.7	4.3	-0.8



野菜の高騰により漬物やキムチ、冷凍野菜が好調となった。気温の低下で乳製品やデザート、飲料などの洋日配は全般的に不調となった。インフルエンザの流行により機能性ヨーグルトは回復傾向がみられ、TV 報道も後押しし納豆は好調とする店舗が多くみられた。降雪(予報)の影響でパン類や冷凍食品に特需があった地域もみられた。前年より相場安の卵は不調とする店舗が多い。

6. 一般食品：-5.4（やや不調）

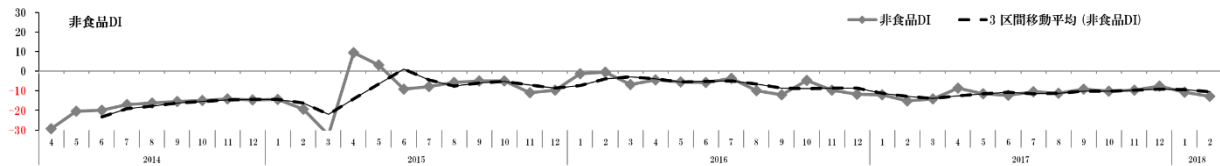
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.5	29.4	43.3	18.2	1.6	-5.7
一般食品（当月）	5.6	32.1	44.4	14.2	3.7	-5.4



前年より低い気温によりスープ類などホット商材は好調に推移した一方で、飲料は伸び悩みをみせた。バレンタイン商戦は手作り用板チョコの不振が目立ち、マーケット縮小を指摘するコメントが多かった。一部地域では降雪に備えて、缶詰やインスタント麺など備蓄可能商品の買いだめ需要もみられた。米類は単価が上昇しており好調となっている。野菜の高騰によりドレッシング類は不調となった。他業態との競合の厳しさを指摘するコメントが多かった。

7. 非食品 DI：-12.8（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.0	33.0	41.1	10.3	2.7	-10.8
非食品（当月）	15.0	35.6	36.9	10.6	1.9	-12.8



気温の低下によりカイロや入浴剤、インフルエンザ対策のマスクなどの動きがよくなっている。タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響を大きく受けているとのコメントが多い。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2018年3月調査（2月実績）キーワード TOP3

1. 青果相場高
2. 天候要因（平年、前年より低い気温）
3. 来客数減（降雪、朝晩の冷え込み）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

2月実績速報版 198社
 1月実績確報版 171社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp